

## シバナンダ・アシュラム研修(2008)でのスワミ・ビマーラナンダジの講話

スワミ・チダナンダジの来日時にはご同行され、現在は Geraral Secretary の立場にあるビマーラナンダジが3年ぶりに会う私たちにダルシャンをしてくださいました。どこでどういう立場にあっても、誰もが、ちゃんと自分の修行ができるということを実感させてくださるお話でした。

皆さんにひとつ、お話をしましょう。「The Day of Pilgrimage」(巡礼の日)という本を読んだことのある方はいらっしゃいますか？

スワミ・ヴィヴェーカーナンダは「インドの最も優れた聖者たちは世界に知られていない」と言いました。またグルデブは「世界中を回ってインドの哲学、よう教えを人々に広めている聖者も、洞窟にこもって、ひとりで修行をしているだけの聖者も世界に対する働きは全く同じである」とおっしゃいました。

どのような思考や思いも一度発したら、この宇宙に留まります。ですから、私たちが集団でよい思いを持つと、この世界に対してよい働きをすることになります。皆さんのような真面目な求道者たちが集団になって瞑想をしたり、よい思いを持つことにより、その場により影響をもたらすことができます。どうぞ、このことをよく覚えておいてください。

私たちの心は、トランジスターラジオより何百万倍以上も優れた力を持っています。ラジオには知性はなく、私たちのようにものを考えたりすることはできません。それでも、その波長を合わせることによって、日本やロンドン、アメリカ、カナダなど世界中からの電波を受信し、情報を受け取ることができます。私たちの心はそれ以上のことができるのです。

私たちひとりひとりが、宇宙意識の一部になっています。神の意識に到達するために、大学の学位や何かの資格を取る必要はありません。近代のインドにおいて、神の化身と言われているラーマクリシュナ・パラマハンサという人がいます。彼はインドの小さな村の貧しい家庭に生まれました。きちんとした教育は受けておらず、自分の名前さえ読み書きすることができませんでした。それにもかかわらず、彼は神に近い精神的な高みにまで到達することができました。どのように、それを成し遂げたのでしょうか。それはただひたすら、神への献身によって、堅実にサーダナ(修行)を続けることによってでした。

スワミ・ヴィヴェーカーナンダは大学生のときに、教授からウパニシャッドなどに現されている様々な神の有り様を、実際に体験した人がいると聞きました。彼はどうしても神を見たい、神を体験したいという思いでいっぱいでしたから、その人、ラーマ

クリシュナにぜひ会いたいと思いました。それまでにも、多くの聖者といわれる人々に会い「あなたは神を見ましたか？」と質問しましたが、満足のいく答えは得られませんでした。例えば、あるヨギは「瞑想をすれば神が見られる」と言いましたが、どうも納得ができなかったのです。そしてある日、ラーマクリシュナのいるダクシネーシュワル寺院に行きました。そこで「あなたは神を見ましたか？」と聞くと、ラーマクリシュナは「はい、今、目の前にいるあなたよりもはっきりと神を見ました。」と答えました。

どれほど強く、あなたは神を望んでいるのでしょうか？多くの人がお金や地位や社会的なものを追いかけていますが、どれほどの人が、真剣に神を追い求めているのでしょうか？もし心の底から真剣に神を求めるならば、3日のうちに神を見ることができましょう。

しかし、だからといって、私は今、皆さん方にすべてを捨ててここに来なさいとは言いません。あなたがどんな状況にあらうとも、神がおかれたその場所で、自分が成すべきことをしてください。

昔、私は、グルデブがあるビジネスマンとオフィスでお会いになっているところに居合わせました。世界中から社会のあらゆるタイプの人々がグルデブに会いにやってきては、いろいろな質問を投げかけていました。あるとき、ビジネスマンたちに対して、グルデブが、いかに生きるべきか、神を思うこと、神の名を唱えることなどを教えていらっしゃいました。ひとりのビジネスマンが「あなたのように出家して、家族や社会への責任がなければ、そういったことも簡単にできるでしょう。しかし、我々俗人は、家族や社会への責任を負っているのです、やらなければならないことがいっぱいあります。一体どうして、そこまでできるでしょう」と言いました。するとグルデブは、「いくつ問題があってもいいのです。もし20の問題を抱えているのなら、もうひとつ加えて21にしなさい。神のことを考えるという問題をひとつ増やしなさい。」とおっしゃいました。

「どんな小さな問題でも、神は見ていてくださいます。あなたの背中の重荷を神に預けなさい。神はこの宇宙全体を背負ってくださっています。神にとって、あなたひとりの重荷などは、取るに足りません。神は偉大な力を持っておられるので、あなたの問題のひとつやふたつ、簡単に持って行ってくださいます。」

グルデブはあなたがどのような状況にいても、神と繋がることのできる素晴らしい方法を教えてくださいました。「何をしようとも、その行為全部を神に捧げなさい。あなたがオフィスで働く会社員であらうと、主婦であらうと、朝、目が覚めた瞬間から意識を神に向けるようにしましょう。なぜならば、神はあなたが眠る前から、ものを考える前から、あなたの思いをすべて見通しておられるからです。朝、ベッドから

起き上がり、まず神に感謝のお祈りをしましょう。この素晴らしい日をありがとうございますと。そして夜、眠りにつく前や、歯を磨いたり、顔を洗ったり、シャワーを浴びたりする時にも、その瞬間、瞬間に意識を集中させます。例えば、ガラス窓を拭いている時、床を磨いている時、お皿を洗っている時、いつも神の名を唱えるようにします。何をしようとも、神の名を唱えながら行うことによって、その行為を神に捧げることができるのです。このように、いつでも神の名を唱えることを続ければ、油がひとつの容器から別の容器に滑らかに流れるのと同じように、神の名が自分の中から自然に流れ出るようになります。

昔、アイルランドに3人のクリスチャンがいました。彼らは無学で、聖書もキリスト教の神学の書物も読んだことがありませんでしたが、神に対する思いでいっぱいでした。朝、目覚めてから夜、寝るまで、空に星を見れば神と思い、自然界のあらゆるものの中に神を見て、称えていました。朝日、そよ風、海の波、花、これら自然の背後にある偉大なる力を感じていました。この3人は、このように日々、あらゆる瞬間に神を感じながら生きていたところ、しばらくすると奇跡を起こせるようになりました。彼らが歩くと、それまで枯れていた土地に緑が生えてきたり、病気だった赤ん坊が治ったりしました。彼らは無学だったにもかかわらず、多くの人を癒すようになりました。それから何年かのうちに、彼らの奇跡の噂があちこちに広まっていきました。

キリスト教会のある司祭が、この噂を聞いて「彼らはまったくの無学だから、私が神学をきちんと教えてあげよう」と思いました。そこで、たくさんの書物を2～3年もかけて集めて、その本を届けるために、彼自身も船でアイルランドに行きました。この司祭は、無学の3人にキリスト教徒であれば当然知らなければいけない教義や神学を1年ほど教え込みました。そして、もう1年も教えたので十分だろうと、司祭は船で帰っていくことにしました。

すると、司祭の船が海の真ん中にきたあたりで、あの3人が海の波の上を走ってやってくるのが見えました。「まだ全部を教えてもらっていないのですよ。どうぞ、私たちを教えに戻ってきてください。」と追いかけてきたのです。それを見た司祭は、「もうそれ以上必要なことは何もありません。あなたがたは必要なことをすでに知っています。」と答えました。司祭は船を使わなければ海を渡れなかったのに、その無学の3人は、波の上を走る事ができたのです。彼らは、知識としては何も知らない子供のようにでしたが、神に深く帰依していました。この話が教えているのは、大学の学位や資格などがなくても、神に対する真剣な思いさえあれば、どこで何をしようとも、神に近づくことができるということです。

皆様の繁栄・健康・幸福・平和・成功と、日本へ無事に帰れるようにとの祈りをこめて神への賛歌を歌います。どうぞ、一緒に歌ってください。

